

# 2014 年度事業計画書

(2014 年 4 月 1 日から 2015 年 3 月 31 日まで)

NPO 法人 市民ネットすいた

## I. 事業の実施方針

当法人を設立して、丸 3 年。その間、吹田市立市民公益活動センターの開設準備および指定管理者としての管理運営を中心に、吹田市内で活動する市民公益活動団体に対する中間支援活動をきめ細かく進めてきた。指定管理者応募時に提案した事業計画書に記載した事業はもちろん、新たに生じたニーズにも可能な限り対応してきた。

今年度は、市民公益活動団体を取り巻く社会環境や求められる役割の変化を把握する中で、当法人の目的・使命を見直し、活動・事業の中長期的な方向を見出す努力をする。

その中で、地域課題の解決に積極的に取り組み具体的な成果を出せる市民公益活動の拡充を図ると共に、特に新しい担い手が生まれる活動・事業を企画・推進していく。

また、吹田市における市民公益活動促進施策の評価・見直しにも取り組む。

## II. 事業の実施に関する事項

### 1. 特定非営利活動に係る事業

#### (1) 市民公益活動に関する情報提供・広報を支援する事業

##### ① ホームページの運営

[内 容] 当法人のホームページを通じて、市民公益活動支援・促進の立場から、市民公益活動に関する情報収集・発信。今年度は、全面的な見直しを行い、より多くの市民に閲覧されるようにする。

[実施場所] インターネット上に開設

[実施日時] 2014 年 4 月～2015 年 3 月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[収 入] 0 円

[支 出] 5,000 円 (レンタルサーバー代他)

##### ② 広報紙の発行

[内 容] 市民公益活動に関する情報や当法人の活動を吹田市内で活動する市民公益活動団体や市民、事業者、行政に伝えるために、紙媒体の広報紙を発行する。

[実施場所] 市内公共施設

[実施日時] 季刊

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政、当法人会員

[収 入] 0 円

[支 出] 29,000 円 (1,000 部)

## (2) 市民公益活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会等との交流・連携を促進する事業

### ① 「復興支援すいた市民会議」の活動におけるコーディネート

[内 容] 2011年の東日本大震災の後、復興支援のために市内でできることをやっていると立ち上がった「復興支援すいた市民会議」に加わり、市民活動団体の連携を促進する。

[実施場所] 当法人事務所

[実施日時] 2014年4月～2015年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[収 入] 0円

[支 出] 0円

## (3) 市民公益活動拠点施設を管理運営する事業

### ① 吹田市立市民公益活動センターの管理運営（指定管理者）

[内 容] 吹田市から吹田市立市民公益活動センターの指定管理者の指定を受け、効果的な管理運営を行う。（詳細は「2014年度吹田市立市民公益活動センター事業計画書（案）」参照）

[実施場所] 吹田市立市民公益活動センター

[実施日時] 2014年4月～2015年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[収 入] 27,523,000円

[支 出] 27,532,848円

### ② 他市の市民活動支援センターとの交流

[内 容] 広域の中間支援団体ネットワークに参加することによって、他市の市民活動支援センターとの交流・連携を促進し、当法人の中間支援スキルのアップを図る。

[実施日時] 2014年4月～2015年3月

[実施場所] 当法人事務所、他市の市民活動支援センター

[収 入] 0円

[支 出] 17,500円（会費他）

## (4) 市民公益活動の促進のための社会的な環境の整備を行う事業

### ① 吹田市における市民公益活動促進施策の評価・見直し

[内 容] 吹田市では、2007年3月に制定された「吹田市市民公益活動の促進に関する基本方針」に基づき市民公益活動促進施策が実施されてきたが、人口構造や地域コミュニティの衰退など社会環境の変化に対応した促進施策を検討する。

[実施日時] 2014年5月～2014年9月

[実施場所] 吹田市立市民公益活動センター

[収 入] 0円

[支 出] 65,000 円（講師謝金、会議費他）

②当法人の活動・事業の中長期的な方向の検討

[内 容] 設立して3年の経験を踏まえて、当法人の目的・使命を見直し、今後3～5の活動・事業の中長期的な方向を検討する。

[実施日時] 2014年10月～2015年3月

[実施場所] 吹田市立市民公益活動センター

[収 入] 0 円

[支 出] 65,000 円（講師謝礼、会議費）

2. その他の事業

今年度は、その他の事業を実施しない。

## 吹田市立市民公益活動センター指定管理 2014 年度事業計画書

(2014 年 4 月 1 日から 2015 年 3 月 31 日まで)

NPO 法人 市民ネットすいた

吹田市立市民公益活動センターは、つぎの体制で運営する。

### a. 配置

当法人の人的能力、センター職員の人的能力及びネットワークで連携している団体・個人の人的能力を最大限に発揮して、利用者に質の高いサービスを提供し、安心・安全に利用できる施設とするために、次の方針で責任者を配置する。

- ・指定管理事業全般は、当法人理事長以下全理事が責任を持って遂行する。
- ・センターの管理運営及びセンター日常業務は、センター長以下常勤職員、非常勤職員を中心として遂行するが、市民主体の運営とするため、ボランティアスタッフの参画を積極的に求める。
- ・常勤職員、非常勤職員ともにセンターの管理運営及びセンター日常業務を担当できるスキルを持つことを基本とする。
- ・夜間時間帯は、常勤職員 1 人、非常勤職員 2 人を配置するが、緊急時などセンター管理運営責任者の判断が必要な事態に対応するため、連絡体制を整備する。
- ・下記休館日及び開館時間を前提に配置計画を作成する。(現時点では休館日廃止は考慮しない)

休館日：毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）、及び 5 月 3 日～5 月 5 日

開館時間：平日 9：30～21：30

日曜日・祝日 9：30～17：30

### b. 責任者の配置人数

当法人及びセンターの具体的な責任者は下記のとおりである。

- ・当法人理事長 1 人 (指定管理事業全般の責任者)
- ・当法人担当理事 10 人 (担当事業の責任者)
- ・センター長 1 人 (センター管理運営責任者。当法人理事を兼ねる)
- ・副センター長 1 人 (センター管理運営責任者代行。当法人理事を兼ねる)

### c. 職員

常勤職員：センター長、副センター長、事務局スタッフ 3 人 計 5 人

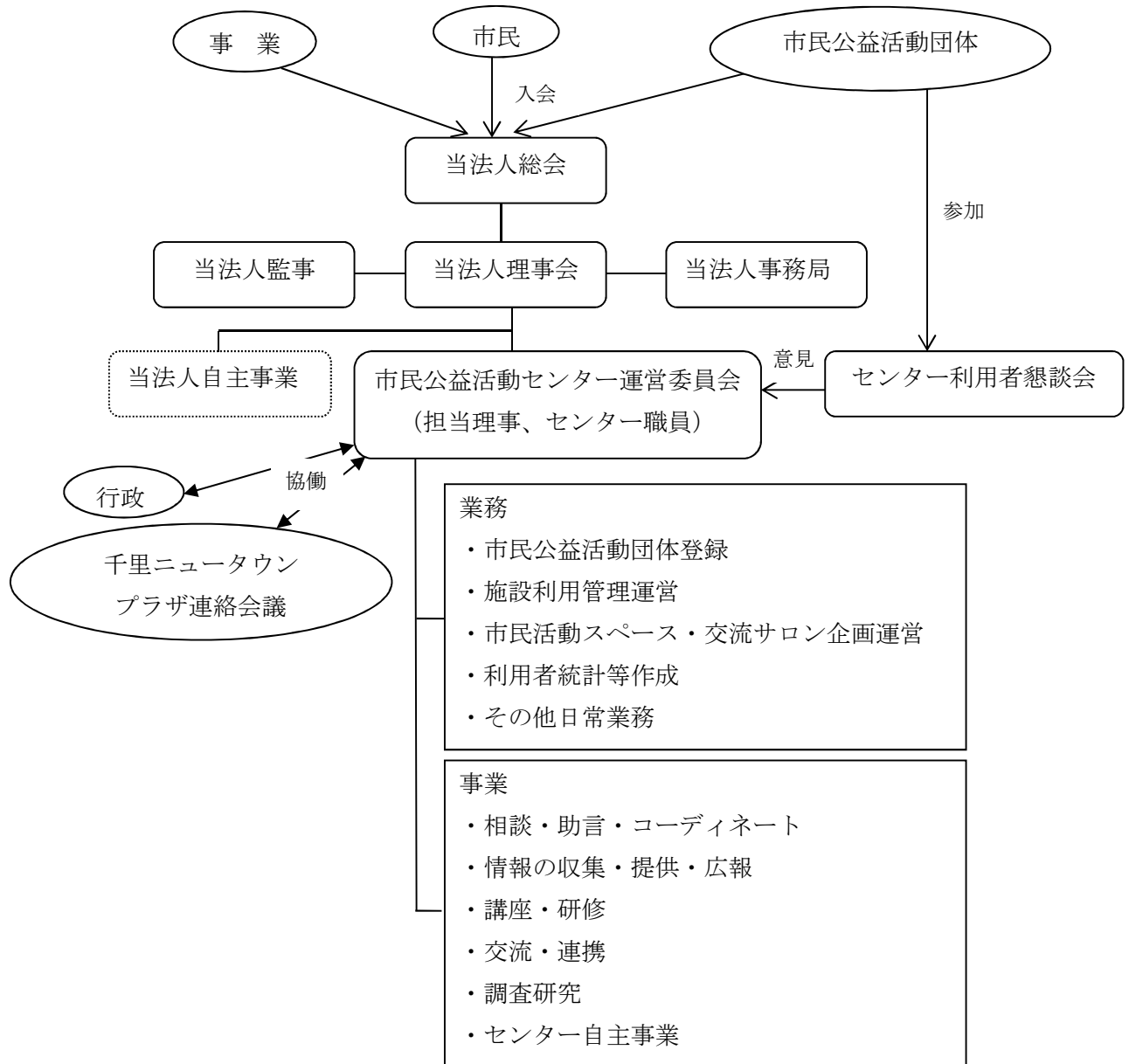
非常勤職員：事務スタッフ 6 人（週 3 日勤務）

ボランティアスタッフ：2014 年度 10 人程度を見込む。

ラコルタサポーター制度を活用し、活動日時・頻度は、開館時間内で活動内容とボランティアの都合から設定する。

d. 組織

下記組織図で示す通りの執行体制で、施設の管理運営を実施する。



e. 職務分担及び職務内容

職務分担及び職務内容は、おおよそ下表の通りとするが、限られた職員で効果的・効率的に業務を遂行するため、日常的業務については、業務マニュアルを整備し、OJT教育により、全職員が担当できる体制を実現する。

担当	職務分担及び職務内容
当法人理事長	市民公益活動センター事業部責任者
当法人担当理事	担当事業の責任者
センター長	センター管理運営責任者、事業全体進行管理、事務局総括、 会計総括、渉外、企画、調整・連絡 各種相談・助言・コーディネート、ネットワーク形成 企画・事業化、IT業務、ニュースレター作成 講師、アドバイザー、各種委員会委員
副センター長	センター管理運営責任者代行（センター長不在時）、センター長補佐 窓口業務、事業担当、会計、事務全般、プロジェクト調整、 各種相談・助言・コーディネート、ネットワーク形成 企画・事業化、IT業務、講師、アドバイザー
上記以外の常勤職員	センター管理運営、窓口業務、事業担当、会計、事務全般、プロジェ クト調整、 各種相談・助言・コーディネート、ネットワーク形成 企画・事業化、IT業務、ニュースレター作成 講師、アドバイザー
非常勤職員	センター管理運営、窓口業務、事業担当、会計、事務全般 各種相談・助言、ネットワーク形成 企画、IT業務、ニュースレター作成 イベント企画・実施

## 1. 市民公益活動拠点施設を管理運営する事業

### (1) センター職員としての能力向上対策

[内 容] 個々の職員の相談対応力・コーディネート力を向上し、担当できる相談等の案件の幅をできるだけ広げるために、相談対応検討会（月1回）を開催する。  
また、相談対応力・コーディネート力向上に資する外部研修（年数回）へ参加し、職員全体の資質の向上を図る。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] センター職員

[費 用] 研修費@20,000×5名=100,000

交通費@5,000×5名=25,000

### (2) センターの存在・機能の周知の徹底

[内 容] 施設利用促進のためには施設の存在と機能を広く知ってもらう必要があり、広報を以下のように行って、これまで利用機会のなかった市民にも施設を知ってもらう。

ア) 地縁団体・サークル活動団体へは市の担当部門や他施設と連携して知ら

せる。施設案内だけでなく、地縁団体が特に利用しやすいサービスを具体的に知らせるような案内をする。

イ) 館内の他施設や、市民活動の拠点機能・支援機能がある市内の機関へは施設案内パンフレットや事業チラシの設置を依頼する。

ウ) 市報掲載をはじめ、既存のマスメディアにも掲載依頼・取材依頼を行う。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[費用] 印刷費 5,000円

### (3) センター内施設の使用許可業務

[内容] センター内の会議室、貸事務室スペース、メールボックス、倉庫、印刷機などの使用の許可を適正に行い、確実に利用料を徴収する。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[費用] 印刷費 3,000円

## 2. 市民公益活動に関する相談事業

### (1) 市民公益活動に関する相談受付・対応の充実

[内容] 市民公益活動団体の運営に関する問題、様々な世代・状況の市民の市民公益活動に参加したいという希望、ボランティアや市民公益活動団体による支援を求める声、市民公益活動に貢献したいという事業者の要望など、様々な内容の相談等に対応していく。電話、FAX、Eメールでの相談等も受け付けることを周知し、税務・会計などの専門的な相談については、施設側からテーマを設定し相談日を設けて利用を呼びかける。

相談受付：開館時間内随時。

相談対応：窓口で対応可能なものは随時。それ以外の相談等は、対応者と日時を調整して対応。

活動希望の相談：窓口で随時対応するほか、講座・研修事業として小規模な入門講座を月1回開催し、終了後個別相談に対応する。

[費用] A4色紙：1,000枚×@2×2回=4,000

インク代：(1,000枚×@0.5+@50)×2版=1,100

A4白紙：500枚×@0.7=350

インク代：500枚×@0.5+@50=300

ア) 専門相談：隔月1回全6回予約制

①税務/会計は、有資格者による相談日を設定。

②窓口で随時相談を受け付け、リクエストベースで相談者との日程調整を行う。専門相談員（税理士、会計士、労務士、行政書士、

弁護士などの専門家)の体制を作る。そのためのプロボノの制度も並行して整備する。労務相談をはじめ、専門相談員で多様な相談の対応を行う。

[費用] 相談員謝金：@10,000×6回=60,000(税務/会計)  
相談員謝金：@10,000×4回=40,000(その他)  
相談員交通費：@1,000×6回=6,000(税務/会計)  
相談員交通費：@1,000×4回=4,000(その他)  
A4色紙：500枚×@2×6回=12,000  
インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版×6回=3,600  
A4白紙：500枚×@0.7×6回=2100  
インク代：(500枚×@0.5+@50)×6回=1800

イ) NPO法人相談：開館時間内随時。

内容はNPO法人設立・運営相談。窓口で随時対応するほか、NPO法人入門講座終了後にも個別相談に対応する。相談体制として、相談員は理事などの経験者があたる。

[費用] 相談員謝金：@10,000×5回=50,000  
相談員交通費：@1,000×5回=5,000  
A4色紙：500枚×4回×@2=4,000  
インク代：(500×@0.5+@50)×2版×4回=2,400  
A4白紙：500枚×@0.7=350  
インク代：500枚×@0.5+@50=300

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者

### 3. 市民公益活動に関する情報提供・広報を支援する事業

#### (1) ウェブサイト

[内容] 更新頻度：随時(週1回程度)

会議室の空き状況の情報掲載を検討する。facebookを活用してセンターの事業案内をする。

ウェブサイトの主なコンテンツ：当施設の開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[費用] プロバイダー(1,344)：@1,500×12月=18,000  
エックスサーバーレンタル(年間)：15,750  
コミュニティリンク(追加作業)：@30,000×3日=90,000(税別)



## (2) ニュースレター

[内 容] 配布部数：2,000部

発行頻度：年4回発行

主な記事：当施設の事業の案内、報告等市民公益活動団体レポートや活動事例、協働事例などの紹介、市民公益活動用語の解説や助成金情報など、市民公益活動団体の役に立つ情報、吹田市の市民公益活動促進策など関連行政情報、当施設で行われる講座・イベント等の案内、当施設以外で行われる講座・イベント、市民公益活動の体験プログラム、人材募集などの情報。

制作方法：専用ソフト（イラストレータ）等で作成し、簡易印刷で内製

配布先：市民公益活動登録団体、当施設利用者、市役所の関連部門、市内の公共施設、市内の地縁組織、市外の市民活動センター・中間支援組織など。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[費用] A3紙用紙(2,000枚、4回)：@8,000×4回=32,000

インク代：(2,000枚×@0.5+@50)×2版×4回=8,400

角2封筒(一箱200枚)：(@1,090×2箱)×4回=8,720

封筒印刷：(400枚×@0.5+@50)×4回=1,000

ラベル(1シート21面×100枚)：1パック=1,190

送料(メール便、@20,480)：@30,000×4回=120,000

寄稿謝金：@10,000×4回=40,000

同封サービス：A4白紙150枚×0.7×4=420

インク代(150枚×@0.5+@50)×4=500

## (3) 「ボランティアグループ・NPOガイドブック」の発行

[内 容] 配布部数：1,000部

「ボランティアグループ・NPOガイドブック」を冊子形式とウェブサイトの2種類で発行する。発行は従来の4月ではなく、多くの団体の総会が終わる7月から調査を始め、9月発行を目指す。

ウェブサイトで随時情報は更新するので、大きく掲載情報が変わらない場合は、冊子形式のものは2年毎の発行に変更する。(2014年度、2016年度発行)

活動に参加する時に役立つ情報や市民公益活動団体に便利な情報も追加掲載する。ウェブサイトでは、団体名や活動テーマなどから目指す情報が探しやすい構造にする。個別団体の詳しい紹介や活動のレポートといったものも、平易な読み物にしてニュースレターやウェブサイトで掲載していく。

[実施日時] 2014年7～9月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

[費用] A4送付用紙(A4白紙)：500枚×@0.7=350

インク代：500 枚×@0.5+@50=300  
 調査票用紙(A4 白紙)：500 枚×3 部×@0.7=1,050  
 インク代：(500 枚×@0.5+@50)+(500 枚×@0.5+@50)×2 版=900  
 封筒(送付用角 2、一箱 200 枚)：@1,090×3 箱=3,270  
 インク代：600 枚×@0.5+@50=350  
 封筒(返信用長 3、一箱 100 枚)：@198×5 箱=990  
 インク代：500 枚×@0.5+@50=300  
 返信用切手：@80×500=40,000  
 ラベル(1 シート 21 面×100 枚)：1,190  
 メール便：@80×500=40,000  
 印刷製本費(1,000 部 @324)：324,000

#### (4) メールマガジン

- [内 容] 発行頻度：2 週間に 1 回  
 センターの事業案内や助成金情報などを送る。  
 [実施日時] 2014 年 4 月～15 年 3 月  
 [事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

## 4. 市民公益活動に関する講座・研修事業

### (1) 一般市民、活動を始めたい人を対象とした講座・研修

- [内 容] 市民が市民公益活動に対する理解、認識を深め、活動に参加する初めの一歩となる講座を開催する。

実施講座：ア) 「自分に合ったボランティア活動を見つけてみませんか～市民公益活動入門講座～」(月 1 回)

職員を中心とした内部講師が、少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説し、終了後具体的な活動につながる個別相談に対応し、実際に活動を体験してもらう仕組みも位置付ける。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけもつくる。

[費 用] A4 色紙 500 枚×@2×4 回=2,000

インク代：(500 枚×@0.5+@50)×2 版×4 回  
 =2,400

### イ) 「地域活動デビュー講座」(年 2 回)

転入者や独身者、リタイア層など、これまで比較的地域になじみのない層の参加を重点的に想定する。自分の生活する地域を知るための企画として、NPO や地縁団体と連携してまち歩きツアーなどを行う。行政担当課に依頼し、転入者対象の吹田市案内にセ

ンターの施設情報やぶちボラの案内もセットしてもらう。

[費用]①A4色紙 2,000枚×@2=4,000

インク代:(2,000枚×@0.5+@100)×2版=2,200

②講師謝金:@5,000×2名×4回=40,000

講師交通費:@1,000×2名×4回=8,000

A4色紙 500枚×@2×2回=2,000

インク代:(500枚×@0.5+@50)×2版×2回  
=1,200

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

(2) NPO法人を知りたい人・団体を対象とした講座・研修

[内容] NPO法人制度について知ってもらい、市民公益活動団体の創設や市民公益活動団体の法人化に役立ててもらおう。

実施講座:「NPO法人入門講座」(隔月1回)

職員を中心とした内部講師が少人数の受講者を対象にNPOとは何か、NPO法人とは何かを伝え、市民公益活動に組織で取り組むにあたって考えるポイント、法人化検討のポイントなどを解説する。終了後、具体的な個別相談とセットにした講座とする。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、市民

[費用] 講師謝金:@10,000×6回=60,000

講師交通費:@500×6回=3,000

A4色紙:500枚×@2×4回=4,000

インク代:(500枚×@0.5+@50)×2版×4回=2,400

(3) 市民公益活動団体を対象とした講座・研修

[内容] 市民公益活動団体のマネジメント力などの強化や、活動に役立つスキルの向上を図る。

実施講座:ア)「会計/税務に関する講座」(2回)

一般的な会計処理の講義とワークをセットにした講座と、活動計算書の作り方をはじめとしたNPO法人向けの講座を開催する。

[費用]講師謝金 30,000×2回=60,000

A4色紙 500枚×@2×3回=3,000

インク代(500枚×@0.5+@50)×2版×3回=1,800

イ)「団体情報の発信に関する講座」(年3回)

広報のノウハウや、スキルアップ、新たなメディアの利用に関する講座。facebookをはじめとしたSNSの活用、マーケティング

を意識した広報のあり方など。

[費用] 講師謝金 30,000×3回=90,000

講師交通費@1,500×3回=4,500

A4色紙 500枚×@2×3回=3,000

インク代(500枚×@0.5+@50)×2版×3回=1,800

ウ) 「財源の確保に関する講座」 (年3回)

補助金・助成金、会員拡大、自主事業財源などをテーマにした講座。吹田市市民公益活動促進補助金の申請書の書き方やプレゼンテーションの講座など。

[費用] 講師謝金 30,000×3回=90,000

講師交通費@1,500×3回=4,500

A4色紙 500枚×@2×3回=3,000

インク代(500枚×@0.5+@50)×2版×3回=1,800

エ) 「NPO・ボランティアグループ運営講座」 (年2回)

事業企画や人材育成など具体的なテーマで講義とワークをセットにした講座。今年度は協働をテーマに、IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)の川北秀人氏を招いての連続講座。

[費用] 講師謝金 30,000×2回=60,000

講師交通費@30,000×2回=60,000

A4色紙 500枚×@2×2回=2,000

インク代(500枚×@0.5+@50)×2版×2回=1,200

オ) 「地域コミュニティ運営講座」 (年2回)

他市の地域運営のユニークな事例などを取り上げた講座。

今年度は、26年5月には新たな研究会を立ち上げ、26年度中にモデル事業実施骨子案を策定する予定の(仮称)地域委員会の参考になるような、地縁団体の必要性について、帝塚山大学の中川幾郎氏から学ぶ。

また、地縁団体の若返りをテーマに、自治会の若いリーダーを招いてシンポジウムを開催する。

[費用] 講師謝金 30,000×1回=30,000

講師謝金 5,000×3名×1回=15,000

講師交通費@1,500×1回=1,500

講師交通費@1,000×3名×1回=3,000

A4色紙 500枚×@2×2回=2,000

インク代(500枚×@0.5+@50)×2版×2回=1,200

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体

#### (4) その他の講座・研修（一部自主事業）

社会的な緊急課題や市民公益活動への影響が大きい動向・政策など、多くの人の関心を呼び市民公益活動の促進に役立つようなテーマがある場合は、タイムリーに開催する。

他団体の主催講座の企画や、講師の派遣を行う「出前講座」の機会があれば、職員や当法人の会員を派遣する（会員の派遣については自主事業）。特に、サークル活動団体や行政、事業者等を対象とした学習機会は積極的に対応する。

[費用] 謝金：30,000円  
交通費：5,000円  
印刷費：10,000円  
消耗品：5,000円

### 5. 市民公益活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会等との交流・連携を促進する事業

#### (1) 市民公益活動のフェスタ

##### ア) かえっこバザール

企画・運営はボランティア、市民公益活動団体などが参画する実行委員会方式。子育て世代の市民公益活動を知る、または参画する機会として捉える。協働作業を通じて、ボランティアや参画団体の交流、連携が深まることも意図する。プラザ館内施設、行政、公共施設、教育機関、事業者などとの連携を促進する機会として位置付ける。

また、大阪府立千里高校と協働し、学校教育の中で社会貢献を学ぶきっかけとなる取り組みを模索する。

[費用] 協力団体謝金：@10,000×5団体=50,000  
A4色紙：10,000枚×@2=20,000  
インク代：(10,000×@0.5+@50)×2版=10,100  
弁当代：@700×30人=21,000  
備品代：30,000

##### イ) 既存イベントに企画側として参画する。

ボランティアフェスタなどに企画側として参画し、全市的に市民公益活動を支援する。

[費用] 出展料：1,000×1回=1,000

#### (2) 「分野別団体交流会」（年4回）

[内容] 環境（リサイクル）、障がい者福祉をテーマに団体の交流会を実施し、互いの活動を知り合うと同時に直面する共通課題について話し合い、自団体の活動へのヒントを得たり、支援機関や他団体と連携して事業を行ったりするきっかけにしよう。

今年度は課題出しから解決に向けて、同じテーマで各2回開催する。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体

[費用] A4色紙：300枚×@2×4回=2,400

インク代：(300枚×@0.5+@50)×2版×4回=1,600

(3) 市民協働マッチング (随時)

[内 容] 随時、市民協働のニーズ (提供してください) を受け付けて、ラコルタのwebやメルマガなどで広報し、分野やセクターを超えた連携・マッチングの支援をする。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、行政、企業、市民など

[費用] A4色紙：500枚×@2×2回=2,000

インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版×2回=1,200

(4) 「現場で学ぶ団体運営学習会」 (随時)

[内 容] NPO法人入門講座と連動する。

見学などの受け入れが可能な市民公益活動団体と見学希望者の日程調整をして、随時見学会を実施する。相談等事業で、相談者に活動事例を知ってもらうことが有効と思われるケースがあれば、市内外を問わず適切な団体に見学受け入れの交渉をして、市内では未実施の活動を含めて、市民や団体が先駆者の経験と活動の現場を直接見聞きできる機会をつくっていく。

[実施場所] 市民公益活動団体

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

[費用] 講師謝金@5,000×6か所=30,000

行事保険@30×20人×6回=3,600

A4色紙500枚×@2枚×6回=6,000

インク代 (500枚×@0.5+@50)×2版×6版=3,600

(5) テーマカフェ (年10回)

[内 容] 特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる場を提供する。参加しやすいように、ゲストスピーカーを毎回呼ぶ。

今年度は社会課題を意識して扱うことや、中高生や大学生を対象としたものにも取り組んでみる。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

[費用] 話題提供者謝金：@10,000×5回=50,000

話題提供者交通費：@1,500×10回=15,000

A4色紙：500枚×@2×10回=10,000

インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版×10回=6,000

(6) 「このゆびとまれ」の会 (1回)

[内 容] 市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人、なにかやってみたい個人が集まり、やりたいことがある人たちが「こんなことをやりたい」と発表した昨年度の「このゆびとまれ」の会の発表者の企画進捗の報告会を開催する。

報告会での意見交換を通じて、団体立ち上げ支援を強化し、市民公益活動団体を作る講座+運営サポート、1年間の会場提供も行う。また、助成金・補助獲得講座と連携して取り組む。その他、相談案件から個別での団体立ち上げ支援も随時行う。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

[費 用] A4色紙：500枚×@2=1,000  
インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版=600

(7) 「まわしよみ新聞」(4回程度)

[内 容] 持ち寄った新聞をまわしよみして、気に入った記事を切り抜き、その場でプレゼンして新聞を作成することで、参加者同士の多様な価値観とさまざまな気づきを共有する。新聞というメディアを通じて、市民メディアの重要性を考える。

ニュータウンプラザ内の各施設とも連携して行う。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

[費 用] A4色紙：200枚×@2×4回=1,600  
インク代：(200枚×@0.5+@50)×4回=600  
新聞代：(@200×5紙)×4回=4,000

(8) 東日本大震災と原発事故により吹田市に避難された方からの相談窓口開設

[内 容] 東日本大震災と原発事故により吹田市に避難された方々の生活支援と現地のNPOなどの支援を目的とする。避難者からの生活に関わるあらゆる相談に対応し、その解決のために行政や市民公益活動団体、企業、市民などに支援を求める。

また、復興支援すいた市民会議に参加し、このセンターで復興支援につながる情報を収集し、避難者に提供することやチャリティなどの共催事業も行う。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 東日本大震災と原発事故により吹田市に避難された方、東日本大震災現地支援NPO、市民公益活動団体、行政、企業、市民

[費 用] A4色紙：1,000枚×@2×2回=4,000  
インク代：(1,000枚×@0.5+@50)×2回=1,200

備品：3,000

(9) 北摂地域無料法律相談（大阪弁護士会の法律相談）

[内 容] 法律相談を定期的開催。

[実施日時] 2014年4月～15年3月 毎月2回午後1時15分～4時15分、会議室1。

[事業の対象者] 市民

(10) おすそわけマーケット（常設）

[内 容] ひとむかし前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣やご近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけからはじまる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げる。編集者の狩野哲也氏と共催。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民

[費用] A4色紙：500枚×@2×4回=4,000

インク代：(500枚×@0.5+@50)×4回=1,200

備品（飾り付け）：3,000

(11) 他事業から生まれる交流・連携

相談等事業の対応結果として交流・連携を生むことも多い。コーディネーションはそもそも「つなぐ」事業であるし、相談への対応や助言の内容が他団体や他機関とつないでいくものであることも少なくない。講座・研修事業においても、参加者同士の交流や連携を図れる場面もある。「交流・連携事業」という枠にとらわれず、施設運営の様々な場面で交流・連携を図っていく。

[費用] 印刷費：5,000円

消耗品：45,000円

6. 市民公益活動に関する調査・研究・政策提言などの市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

(1) 協働事例集の作成

[内 容] 目的：市内外の先進的な協働事例を調査し、冊子にまとめ、各団体及び行政の協働取り組みの参考に供する。事例調査には市民公益活動団体の参加を求め、団体の学習機会にもする。

調査内容：とりあげる協働事例を事前調査でピックアップして、対面によるヒアリング調査を行う。

調査結果の公表：100ページ程度の報告書をワード等で作成し、簡易印刷後、外注で製本する。300部発行予定。報告書は調査協力者や関連機関に送付するほか実費程度で頒布し、ウェブサイトからは無料配布する。事例のニュースレター掲載や、講座・研修事業や交流・連携



事業で報告会・フォーラムなどを行うことも検討する。

[実施日時] 2014年4月～16年3月

[事業の対象者] 吹田市内で活動する市民公益活動団体、行政、企業、大学など

[費用] 調査用紙(A4白紙)：500枚×3部×@0.7=1,050  
インク代：(500枚×@0.5+@50)+(500枚×@0.5+@50)×2版=900  
封筒(送付用角2、一箱200枚)：@1,090×1箱=1,090  
インク代：600枚×@0.5+@50=350  
封筒(返信用長3、一箱100枚)：@198×1箱=198  
インク代：500枚×@0.5+@50=300  
返信用切手：@80×100=8,000  
ラベル(1シート21面×100枚)：1,190  
メール便：@80×100=8,000

## (2) その他の調査研究

施設利用者に対してアンケート調査やヒアリングなどでニーズを調査し、その都度分析報告するほか、年度単位でも集計・分析を行う。結果は、年度単位の事業報告で公表する。

また、吹田市市民公益活動促進補助金の原資となる基金を増やすために、マッチング・ギフト方式のような基金積み立て方式などを行政向けのアドボカシーとして検討する。

## 7. 施設運営について

### (1) 利用者懇談会

事務ブース団体、利用者、センター長、副センター長、職員で構成する。市の担当者はオブザーバーで参加する。指定管理者としてCNS代表も出席。

基本的には年4回開催。(6月、9月、12月、3月)

[内容] ・意見箱の内容を共有。  
・センターの運営や利用、サービスに関しての意見を出してもらい、運営に反映していく。  
・事業報告。

[費用] A4色紙500枚×@2×4回=4,000  
インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版×4回=2,400

### (2) ボランティア制度

登録ボランティア(ラコルタサポーター)がセンターと協力しながら事業を企画できるようにする。ボランティアが参加しやすくやりがいを感じやすいように、例えば、テーマカフェなどでは利用者で世話人会を組織したり、媒体の企画や取材・執筆をボランティアが行う。このようなことは、市民と市民公益活動が出会う機会にもなるので、ボランティアの参画を積極的に進めたい。

また、単発短時間で取り組める「ぶちボラ」の制度でボランティアが運営側として参画で

きるような体制を組んでいく。そのうえで、メニューの充実を図っていくことも考える。

[費用] A4色紙 500枚×@2×4回=4,000

インク代：(500枚×@0.5+@50)×2版×4回=2,400

### (3) インターンシップの受け入れ

主に大学生を対象とした「インターンシップ・プログラム」を作成し、受け入れ体制を作る。参加者には、センターでの色々な仕事の体験から、自分自身のキャリアや市民公益活動や市民自治について考える時間を持ってもらい、次世代の市民公益活動の担い手づくりをめざす。

## 8. 自主事業

### コミュニティカレッジ（仮称）構想

地域の課題解決や活性化に向けた市民公益活動を行う地縁団体やボランティア、NPOなどの公共人材育成に取り組み、次世代の市民公益活動の担い手を生み出す新しい学びの場として「コミュニティカレッジ」を計画する。

今年度は研修会を2回実施（大阪狭山市、神奈川県）し、先行事例を参考にしながらコミュニティカレッジの骨子案を策定していく。

[実施日時] 2014年4月～15年3月

[事業の対象者] 市民公益活動関係者

[費用] 講師謝金：@30,000×4回=120,000

交通費：@3,000×3回+30,000×1回=39,000

A4色紙：500枚×@2×4回=4,000

インク代：(500枚×@0.5+@50)×10版×4回=12,000